令和元年度　秋田県公文書館企画展（後期）

秋田県の城下町

◆開催期間：令和元年１１月１２日（火）～１２月３日（火）

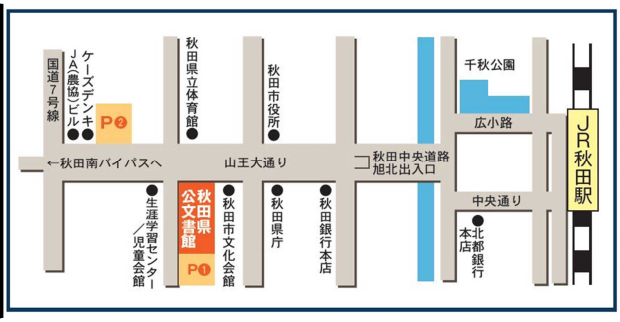
※期間中の休館日：毎週水曜日（１１月１３日、２０日、２７日）

◆会　　場：２階　特別展示室（午前１０時～午後５時）

「久保田城御城下絵図」（資料番号：県 C-168）

秋田県公文書館

〒010-0952　秋田市山王新町 14-31
電　話　018-866-8301
ＦＡＸ　018-866-8303
E-mail　koubunshokan@pref.akita.lg.jp
ＵＲＬ　https://www.pref.akita.lg.jp/kobunsyo/
ツイッター公式アカウント　https://twitter.com/Akita_Archives



ごあいさつ

江戸時代、現在の秋田県域には久保田藩、本荘藩、亀田藩などの城下町がありました。久保田や本荘はその代表ですが、この他にも、佐竹氏一門が居住したり、中世武士の拠点であったことから発展し、「城下町」としての機能を備えた町がありました。

今回の企画展では、江戸時代にこれらの町を色彩豊かに描いた絵図をはじめ、明治期以降の様子を示す文書や写真などを紹介します。

この機会に当館所蔵資料を通して、かつての城下町を思い描きながら、江戸時代から現代に至るまでの先人たちの歩みをたどり、記録を残し伝えることの大切さを感じ取っていただければ幸いです。

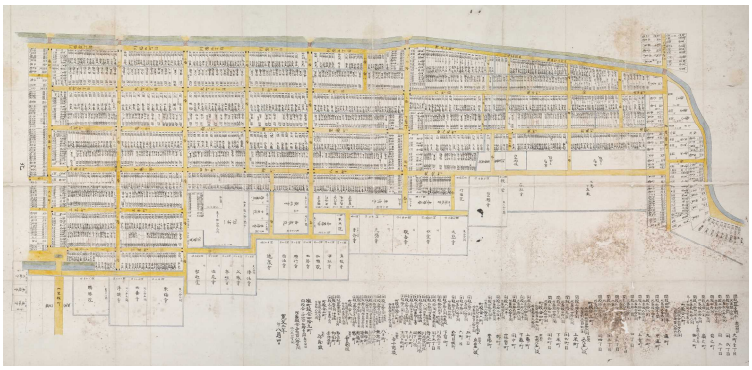
令和元年１１月

秋田県公文書館

◆主な展示資料

「外町屋敷間数絵図」（資料番号：県 C-164）

寛文３年(1663)の外町(町人町)の様子を描いた絵図で、屋敷割や間口間数、居住者名などの情報が豊富に記されています。城下絵図の多くは外町の詳細を略して描いているものが多いので、同時期の城下絵図と合わせて見ることで、その当時の久保田城下町の全体像をつかむことができます。



「大館城並びに城下居住絵図」（資料番号：県 C-193）

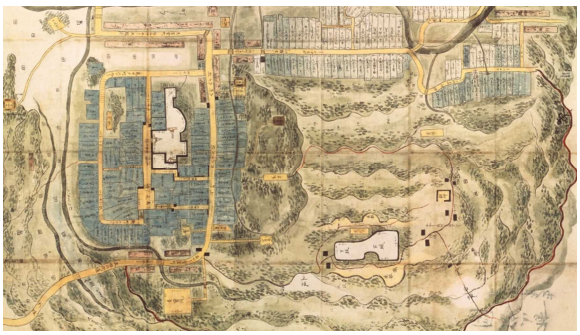
慶長７年(1602)の佐竹氏の秋田入部以降、佐竹氏一門の佐竹西家が大館を治めました。城下町は、内町(侍町)を囲むように羽州街道が通り、街道沿いに外町が形成されました。元和元年(1615)には一国一城令が発令されましたが、津軽・南部両藩に対する要衝として大館城は破却を免れました。そして、戊辰戦争でそのほとんどが焼失するまで、久保田城の支城としての役割を果たしました。現在、その跡地は桂城公園として整備されています。

「横手絵図」（資料番号：県 C-21）

横手は、秋田領南部の軍事・政治・経済の中心地でした。絵図からは、横手川を境に内町(侍町)と外町(町人町)に区分されて町が形成されていることがわかります。佐竹氏の秋田入部以降の横手は、伊達氏、須田氏と続き、寛文 12 年(1672)以降は重臣の戸村氏が治めました。一国一城令に際しても、横手城は、大館城とともに破却を免れました。

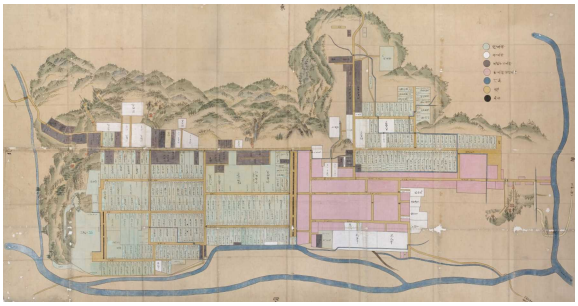
「檜山絵図」（資料番号：県 C-120）

檜山は、安東氏が中世に檜山城を築き、寺院を配置するなどして町づくりが進められました。江戸時代には重臣の多賀谷氏が治めました。一国一城令での檜山城の破却後、多賀谷氏が茶臼山に新たに築いた居館を中心に町場が形成されました。絵図では、檜山安東氏城館跡（檜山城跡）が「古城」と記されています。



「仙北郡角館絵図」（資料番号：県 C-95）

佐竹氏の秋田入部以降、角館は芦名氏が治めました。承応２年(1653)の芦名氏の断絶後は、佐竹氏一門の佐竹北家が幕末まで治めました。町は南北に長く、ほぼ町の中央に位置する火除地帯が町を南北に分け、中央には土手が築かれました。そして、基本的には土手の北側が内町(侍町)、南側が外町(町人町)となりましたが、外町の領域にも一部、侍屋敷が見られます。

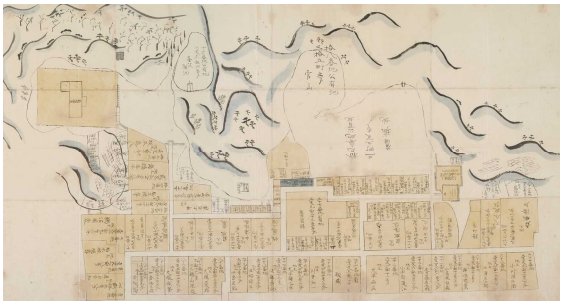


「湯沢絵図」（資料番号：県 C-4）

湯沢は、佐竹氏の秋田入部以降、佐竹氏一門の佐竹南家が治め、湯沢城の城郭や城下町の整備を進めました。基本的には、町の東側に内町(侍町)、西側に外町(町人町)が形成されました。一国一城令に従い湯沢城を破却した後、佐竹南家は居館を構え、絵図では「淡路屋敷」と記されています。

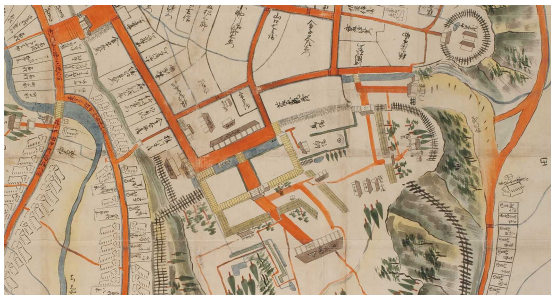
「亀田屋敷分布図」（資料番号：県 C-299-1）

元和９年(1623)、岩城吉隆が信濃国川中島から転封されて亀田に２万石で入部し、亀田城を築き居城としました。この絵図は、旧亀田城下にあたる由利郡岩城町(現：由利本荘市)の明治初期の様子を描いたものです。戊辰戦争の際、亀田城は久保田藩の軍勢の攻撃で焼失したため、絵図では「旧城地」と記されています。



「矢島近辺絵図」（資料番号：県 C-282）

寛永 17 年(1640)、讃岐国高松藩主だった生駒高俊は、お家騒動(生駒騒動)の後、幕府から１万石を与えられて矢島に移りました。万治２年(1659)、次期当主とその弟で矢島領は分知されたため、生駒氏は旗本身分となり、当主は江戸在府となりました。当主は安永９年(1780)までお国入りを許されなかったので、絵図の中の「御陣屋」は代官の居宅として機能しました。



「秋田県管轄第４大区１小区羽後国由利郡本荘縮図」
（資料番号：県 C-157-74）

本荘は、元和９年から幕末まで、六郷氏を藩主とする本荘藩の城下町でした。六郷氏が居城とした本荘城は、戊辰戦争で庄内藩勢の攻撃を受け焼失し、明治２年(1869)に廃城となりました。そのため、明治８年当時の本荘の様子を描いたこの絵図では、「旧城跡」と記されています。

展示資料一覧

（絵図関係の資料のみ原本の寸法も掲載）

コーナー	資料番号	資料名	年（和暦）	年（西暦）	寸法（cm）
秋田（久保田藩）	県C-178	御国替当座御城下絵図			150×129
	県C-168	久保田城御城下絵図	文政５	1822	158×203
	AH291.5-10	秋田市全図			39×55
	AH291.5-7	秋田市全図			24×35
	県C-604-1	千秋公園設計参考図			
	県C-604-2	千秋公園設計参考図			
	930103-06231	記念館建築費本年度支出額節工事監督其他諸費支出関係及雑件書類	大正７	1918	
	930103-06057	内務部土木課事務簿	大正12	1923	
	AH291.5-13	秋田市案内	昭和11	1936	
	県C-164	外町屋敷間数絵図	寛文３	1663	71×145
	県C-678	秋田県公園絵図	明治29	1896	71×97
大館（久保田藩）	県C-193	大館城並びに城下居住絵図	文化12	1815	129×195
	930103-06112	大館軌道関係書類	大正９	1920	
	B04-2-3	大館市勢要覧	昭和62	1987	
	B04-2-2	大館市勢要覧	昭和60	1985	
横手（久保田藩）	県C-21	横手絵図	享保13	1728	220×144
	AH291.8-4	横手案内	明治40	1907	
	930103-12134	皇太子殿下行啓関係綴	大正14	1925	
	B03-13-2	横手市の都市計画	平成３	1991	
檜山（久保田藩）	県C-120	檜山絵図	天保２	1831	158×219
	930103-10967	丙号達留	明治13	1880	
	930103-06428	勧業課諸務掛事務簿	明治13	1880	
	B02-4-2	能代市勢要覧	昭和57	1982	
角館（久保田藩）	県C-94	仙北郡角館士民居所図	元禄17	1704	126×231
	県C-95	仙北郡角館絵図	享保13	1728	314×163
	AH291.7-11	秋田県角館町案内俯瞰図	大正６	1917	39×54
	930103-01655	献上願書	大正14	1925	
	930103-11950	澄宮殿下御成関係書類	昭和６	1931	
	930103-50997	あきた（県広報誌）	昭和47	1972	
湯沢（久保田藩）	県C-4	湯沢絵図	享保13	1728	417×187
	高久１	湯沢外町絵図	明和２	1765	41×301
亀田（亀田藩）	県C-299-1	亀田屋敷分布図			68×178
	930103-07944	勧業課工商掛事務簿	明治17	1884	
矢島（矢島藩）	県C-282	矢島近辺絵図			149×140
	930103-11582	官省上申指令書留	明治11	1878	
	AH291.6-4	由利郡案内	大正５	1916	
本荘（本荘藩）	県C-157-74	秋田県管轄第４大区１小区羽後国由利郡本荘縮図	明治８	1875	39×55
	930103-03336	第三課学務係事務簿	明治36	1903	
	930106-30237	本荘市制施行関係書類	昭和29	1954	